

2. 事業の概要と成果

(1) 上位目標の達成度

本事業の上位目標は「ラオスにおける障害者に対する職業訓練等による就労支援を通じ、障害者の社会的・経済的自立を促進する。併せてそのための職業訓練指導員を養成する」であり、2011年5月に事業が開始されて以来1年間で35名の障害当事者の職業訓練を行い、2012年6月現在27名が就労、起業を達成することができた。当事業では1年間に計5回の車椅子・福祉機器製造・修理・販売研修を開催し、各回7名、合計で35名の男性障害者が研修に参加した。2012年1月には研修生5名が中心となりビエンチャン市内に車椅子修理、携帯、テレビ修理店を開店し（ロールモデルストア）、当就労支援センター以外にも研修後に研修生が引き続き訓練を継続したい場合にはこのロールモデルストアを活用することができ、ラオス人の指導による更なる修理・ビジネスの経験を積むシステムが構築されたことにより、持続可能な支援を担保することができるようになった。ロールモデルストア（実際の店舗）で短期間の職業準備期間を経て就労また各自宅で簡単な修理店などを開く研修生もいた。研修生の就労に向けた具体的な希望を聞き、各自の就職・起業活動に対して当センターの指導スタッフがきめ細やかなアドバイスや支援を行っている。また、当団体の日本人現地プロジェクトマネージャーがラオス人スタッフ及び研修生と共に近隣の病院や薬局など数百件を回り直接マーケティング方法や販売促進方法等の指導も日々の業務で行った。更に本事業のカウンターパート団体でもある障害者当事者団体のラオス障害者協会と協力し、左記団体が実施している就労斡旋プログラム（欧米NGOとの協働プログラム）への登録も奨励し、当事業で研修を受けた研修生の多くが就職・起業の道へと確実に進めるようあらゆる既存のリソースを駆使して当事業の上位目標を達成すべく1年間努力し、一定の就労の成果を上げた。

また、研修期間中、期間後も目標とした研修生総数の50%の就労率を達成するために、車椅子・福祉機器製造修理以外の仕事についても一般の民間会社や工場、店舗への就職活動支援もニーズに合わせ積極的に行ってきた。研修生35名のうち、就職・起業の実績数は一般就労10名（バイク修理店、コンピュータ修理会社、アクセサリー加工店、日用雑貨販売店、アパレル工場）、修理店など起業4名（車椅子修理、携帯電話修理・TV修理等）、自宅などでの店の手伝い、店先での修理屋（バイク修理等）など8名、ロールモデルストア（車椅子修理等）5名（第5回研修生が訓練中）、自宅に戻り、修理屋など起業及び起業準備が8名である。このように高い就職・起業率を達成できた背景には、今までラオスには存在しなかった仮想店舗によるOJT方式と顧客との実際の取引をビジネス訓練に取り入れた新しいタイプの職業訓練によるところが大きく、研修生は実際のビジネスの場で仕事に対するモチベーションを上げ、就労・起業への意識が大いに高まった。このような新しい職業訓練形

	<p>態が高い就職率を達成できた理由の第 1 に挙げられる。</p> <p>更に当事業の目的の一つでもある車椅子・福祉機器製造・修理・販売指導者育成に関しては、左記業種の指導員として、ラオス人指導員が順調に育成されたことも大きな成果である。第 1 回の研修生 2 名が車椅子製造に大変関心をもち、講師として招いたタイ人の車椅子製造会社へ数か月間修行のため働きに行き、更に基礎技術を研鑽し、上記のロールモデルストア、また当就労支援センターで働きながら車椅子・福祉機器製造・修理、販売及び指導を行っている。彼らの真面目さ、熱心さは日本及びタイの車椅子製造専門家の折り紙付きでもある。第 5 回車椅子製造研修は彼らと当センター技術指導員を中心に開講することができたことも当事業の持続発展性に向けた成果ともいえる。また第 4 回、第 5 回車椅子・福祉機器製造・修理・販売研修の研修生の中にも車椅子製造に関心のある研修生が数名おり、当センターの技術指導員である第 1 回研修生と相談し起業を模索、今後車椅子製造・修理に特化した新たな工房を立ち上げる予定である。</p> <p>2012 年 1 月には研修生の 2 人が発起人になりグループでビエンチャン市内に車椅子修理、携帯、TV 修理の店（ロールモデルストア）を構え、車椅子製造研修を終えた研修生たちが共同生活をしながらその店で経験を積んだ。研修生の中にはバイク修理の道に進みたいという研修生もおり、技術を磨くためロールモデルストアから近所のバイク修理工房へ通い、経験を積んでいる研修生もいた。ニーズに合わせ、車椅子修理に特化することなく、こうしたフレキシブルな就労・起業アレンジも当センターのスタッフで行っていることも当事業の特徴である。すでに数名の研修生たちは郷里に戻り、小さいながらも自宅で修理の店を開いたりなどしている。北部の町ウドンサイ出身の研修生は研修の後ロールモデルストアで TV 修理を主に担当し、数か月後に親族の援助を受けられるということで地元に戻り自宅で開業をすることができた。また研修期間中にスタッフの助言を受けて就職活動を行いビエンチャン市内のコンピュータ修理会社に就職した研修生等もいた。</p>
(2) 事業内容	<p>平成 23 年 5 月より事業開始</p> <p>◇車椅子製造研修 計 5 回</p> <p>講師：タイの車椅子製造会社社長、スタッフ、大分タキ会長（第 1 回、第 4 回）、当センター技術指導員</p> <p>期間：9 日間（研修生の習熟度により延長 1 日有） 製図 4 日間、製作 5 日間</p> <p>平成 23 年</p> <p>7 月 第 1 回車椅子製造研修（タイ人講師、日本人講師）</p> <p>8 月 ビジネスセミナー（タイ人講師）</p>

	<p>10月 第2回車椅子製造研修(タイ人講師) ビジネスセミナー(ラオス人講師)</p> <p>2回開催したビジネスセミナーには、地方、またビエンチャン市内から各回20名の障害当事者が参加した。</p> <p>12月 第3回車椅子製造研修(タイ人講師)</p> <p>平成24年</p> <p>1月 障害当事者の就労に関するセミナー(ルアンパバーン) (大分太陽の家理事長による公演、当センター紹介・障害当事者の就労について、ラオス障害者当事者協会会長、パラリンピック委員会委員などによるパネルディスカッション)</p> <p>3月 第4回車椅子製造研修(車椅子バスケットボール用車椅子)</p> <p>5月 第5回車椅子製造研修</p> <p>全5回、計35名の障害当事者に車椅子製造研修を行い、研修後の3か月のOJTを経て27名が就労、起業することができた(平成24年6月現在第5回研修生5名がロールモデルストアで訓練中)。</p>
(3) 達成された効果	<p>過去5回の車椅子・福祉機器製造・修理・販売研修、またビジネス研修を通して、第一に研修生のモチベーションに大きな向上が見られた。車椅子製造研修のタイ講師は自身も車椅子利用者であり、重度障害者でもある。その講師が身をもって障害に打ち克ち、ビジネスの世界で成功し、業績を上げた経験と技術を基にラオス研修生に熱心に指導してくれた。ラオス研修生も大いに刺激を受けた。また、ビジネスセミナー・研修の講師はラオス人の健常者であるが、ラオスの経済界でも成功し活躍している著名の人物である。十代の頃にオーストラリアに家族で渡り、苦労して現在の地位を築いた人である。こうした講師陣から講師自身の経験を聞き、ビジネスのノウハウを学び、車椅子製造の指導を受けることは障害当事者自身に「(はじめは小さくても)自分たちで起業することができる」という意識、自信を与えた。</p> <p>第二に研修を通し車椅子製造・修理技術を身に付け、将来ラオス第一号の車椅子製造販売会社を作りたいという研修生が現れた。車椅子だけでなく、杖、ベッド他の福祉機器等も作りたい、ラオスにこうした会社がないのは残念なことだ、こうした建設的なディスカッションがスタッフ、研修生の間でも自然と行われている。</p> <p>第三に職業訓練校などを出ても「経験がない」という理由で起業もできず、また修理店などに雇用もされてこなかった障害当事者たちが、当事業の車椅子・福祉機器製造・修理・販売研修を受講し、その後も当センターの支援を受けて就職・起業を達成することができた。仮想店舗による「OJT」が功を奏し活きたビジネストレーニングを経験できたことが彼らの就労意欲を高めることに繋がった。当事業は規模は小さいものの、効率的・効果的にプログラムを展開する</p>

	<p>ことができ、研修期間だけではなく、研修後も継続した支援が当事業の特徴である。研修期間は全 5 回計 35 名の障害当事者に車椅子製造・指導・販売研修を行い、研修後の 3 か月の OJT（オンザジョブトレーニング）を経て 27 名が就労、起業することができた（平成 24 年 6 月現在第 5 回研修生 5 名がロールモデルストアで訓練中）。</p>
(4) 持続発展性	<p>研修生が自身で立ち上げたロールモデルストアの存在は大きく、このロールモデルストアは今後増える予定であり、将来の研修生が職業訓練を受けながら、実際の店舗でビジネスを修業できる場としてラオスの障害当事者の就労・起業支援に大きな役割を果たすことが期待されている。持続発展性という観点からいえば、このストアが将来の研修生の職業訓練・就労体験の場ともなることから持続発展性は担保されている。また、順調にラオス人の技術指導者も育成されている。第 2 期も引き続き、研修後のロールモデルストアによる OJT を積極的に行っていく。こうしたロールモデルストアの存在が研修生同士のネットワーク強化にもつながっており仲間同士の協力・連携体制を引き出している。また今回の研修で車椅子等の製造・修理に関心を持ち、引き続き当事業、ひいては今後ラオスで車椅子・福祉機器製造・修理・販売をビジネスとして行っていきたいと話す研修生も出てきているので、3 年間で基本的な支援は終わるが、引き続きラオスの障害当事者の手により、彼らが中心となって車椅子及び福祉機器製造・修理・販売研修をけん引し、更にラオス人による会社設立が多いに期待されている。当団体もしっかりとラオス人の持続発展性を側面から引き続き支援していきたい。</p>